

●幕末 - 明治頃



山形岳景《陸奥勝景道中絵図のうち 現在の吉野町付近から見た岩木山》
幕末 - 明治頃 紙本墨画 弘前市立博物館蔵

- 1880 (明治13) 年
 - ・楠美冬次郎がリンゴ園「不換園」を開設。リンゴ園の一角には屋敷があり、広い庭園が設けられ、大きな池が3つあり、鯉や金魚などを養殖し、そのほかに花菖蒲園が造られていた。畑にはリンゴの他、スモモ、西洋ナシなどがあり、トマト、アスパラガス、カリフラワー、レタス、キャベツ、エンドウなど西洋野菜も試植された



楠美冬次郎のリンゴ園「不換園」中津軽郡
富田村124番地、住吉神社筋向かい
明治年代初期

- 1897 (明治30) 年
 - ・4月15日、松木彦右衛門、鳴海久兵衛、佐藤英司、館山斬之進ら13名を發起人として設立許可申請を行っていた電燈会社の設立が認可された
 - ・火力発電所の建設敷地の候補地として不換園があげられる。楠美冬次郎は宅地の一部を譲渡

- 1901 (明治34) 年
 - ・1月26日、弘前電燈株式会社が発足 (親方町の長久楼において創立総会が開かれる) 6月10日開業 (社長：大道寺繁禎)
 - ・第一番に楠美家に電灯がつく
 - ・営業運転が開始され、弘前市他二か村で422灯の電灯がともる
 - ・当時の価格は、電燈5燭光90銭、10燭光1円30銭、16燭光1円80銭

- 1907 (明治40) 年
 - ・弘前電燈株式会社は水力発電に切替えることになり、この場所から本町に会社を移した (ただし、本社が移転したのは1916年5月)
 - ・弘前電燈株式会社の重役を務めていた福島藤助が同社の跡地を譲り受け、茂森町より倉庫3棟を移築 (現存するC棟を含む)
 - ・福島酒造会社と名称を改める



建設中の煉瓦倉庫の様子
福島家蔵



左：「吉野桜」広告 1909年
右：「吉野桜」広告 明治後期
弘前市立弘前図書館蔵



1860' s-

- 1863 (文久3) 年
 - ・11月25日、のちにリンゴ園を開く楠美冬次郎生まれる



楠美冬次郎 (1863-1934)
弘前市立弘前図書館蔵

- 1871 (明治4) 年
 - ・2月2日、のちに酒造工場の社長として煉瓦倉庫を建設する福島藤助生まれる
 - ・廃藩置県



福島藤助 (1871-1925)
福島家蔵

- 1875 (明治8) 年
 - ・内務省勸業寮が輸入したりんごの苗木の配布を受け植栽し、青森県内におけるりんごの栽培が始まる
- 1879 (明治12) 年
 - ・御菓子司開運堂が開業

1880' s-

- 1881 (明治14) 年
 - ・明治天皇巡幸で御来弘
- 1889 (明治22) 年
 - ・4月1日、弘前市制が施行される
- 1890 (明治23) 年
 - ・楠美冬次郎、佐野熙による著書『苹果要覧』出版される
- 1891 (明治24) 年
 - ・青森駅が開業、東北本線上野～青森間が開通
- 1894 (明治27) 年
 - ・8月1日、日清戦争宣戦布告
 - ・12月1日、青森 - 弘前間の鉄道が開通
- 1896 (明治29) 年
 - ・9月18日、第八師団の弘前設置が決定
 - ・この頃まで、住吉神社の森の向こうには人家もまれて、田畑が広々とひらけ、桑やリンゴの木が植えられ、家が点在するという草深い田舎であったという
 - ・福島藤助、大工から酒造業に転身、「吉野桜」の製造を始める
- 1897 (明治30) 年
 - ・10月10日、第八師団司令部が設置される。
 - ・酒造法の制度改革が行われ、自家用酒の醸造が全国的に禁止される
 - ・このころからリンゴの生産量の飛躍的な増加 (1897-1901までに生産量が約4倍) に伴い、大量に生じる屑実の加工法の開発が進められる
 - ・三原堂弘前支店が建てられる (のちにこの建物を1920年に一戸時計店が譲り受ける)
- 1899 (明治32) 年
 - ・東京工業大学の教授2名がリンゴ酒を試醸
 - ・有数の酒造家松木彦右衛門の養子・松木淳一がリンゴ酒を試醸

1900' s-

- 1900 (明治33) 年
 - ・1月25日、石坂洋次郎誕生。以後青森県立弘前中学校を卒業するまでの間と、1925年に教員として赴任した約一年間を弘前で過ごす
 - ・3月8日、のちに朝日シードル株式会社の社長となる吉井勇、北海道に誕生
 - ・皇太子殿下 (大正天皇) の御成婚の式典の際、楠美冬次郎が宮内省を通じてリンゴ200玉を献上
- 1904 (明治37) 年
 - ・2月10日、日露戦争宣戦布告
- 1905 (明治38) 年
 - ・1月、第八師団が第一・第七・第九師団とともにロシア軍と死闘。死傷者甚大。
 - ・果実酒が無税となり、販売価格の引き下げが可能となる
 - ・松木合資会社設立
- 1906 (明治39) 年
 - ・住吉町に長谷川牛乳店開業
- 1907 (明治40) 年
 - ・煉瓦倉庫の工事着工にともない、小栗山に煉瓦工場を建設
- 1908 (明治41) 年
 - ・弘前商業会議所開所
 - ・文部省外国留學生盛岡高等農林学校教授・中村鼎によるフランスノルマンディー地方におけるシードルの視察
- 1909 (明治42) 年
 - ・市内に電話開通
 - ・開市300年



住吉町にあった一流料亭「住吉館」 明治後期
弘前市立弘前図書館蔵

- 1913(大正2)年
 - ・施設の拡充が図られ、工場の増設が完成。アンモニア製氷機、蒸気機関、精米機、細菌学研究設備、冷却装置が設けられたことで清酒の四季醸造が可能となる
 - (和歌山県妙寺村にいた「純粋酵母醸法」の研究者・溝端久太郎の全面的な協力を得て、四季醸造が可能に。四季醸造は計画生産ができるために、大幅なコストダウンができ、酒造界に一大革新を促す画期的なものであった)
 - ・事業拡大後、敷地面積3700坪、建物は工場と倉庫を含め10棟からなり、総建て坪は2200坪だった
 - ・「長安正宗」を新たに売り出す

- 1914(大正3)年
 - ・冷蔵庫をつくり実験的に夏仕込みも行うようになる

- 1915(大正4)年
 - ・酵母製造を主体とする酒造研究所が完成
 - ・この頃の年間製造高は約3000石

- 1917(大正6)年
 - ・酒造研究所が火災により焼失するが、すぐに再建する

- 1921(大正10)年
 - ・この頃の年間製造高は約6000石となり、県内第一の製造高を誇った。
 - (富名醸造株式会社の製造高と併せると1万石を超え、この頃福島は念願の目標を達成したことになる。当時青森県全体の酒造量は8万3000石)

- 1922(大正11)年
 - ・福島醸造株式会社設立(個人企業から株式会社へと進展させる) 資本金200万

- 1923(大正12)年
 - ・倉庫増築(現存するA棟、B棟もこの頃に建てられる)



煉瓦倉庫外観
弘前市立弘前図書館蔵



当時のB棟1階の様子
福島家蔵

- 1931(昭和6)年



吉田初三郎《弘前市鳥瞰図原画》より部分
右の写真、画面右手に見えるピンク色の建物が煉瓦倉庫
弘前市立弘前図書館蔵



当時のB棟2階の様子
1932年以前
弘前市立弘前図書館蔵

1910's-

- 1910(明治42)年
 - ・青森市が未曾有の大火に見舞われる(全市街の3分の2が焼失)
 - ・福島藤助は取り立てていた酒屋の惨状をみかねてバラックを建てる

- 1913(大正2)年
 - ・青森県内は未曾有の大凶作

- 1914(大正3)年
 - ・7月28日、第一次世界大戦勃発

- 1915(大正4)年
 - ・大正天皇をお迎えして大規模な陸軍特別大演習が行われる

- 1917(大正6)年
 - ・5月、富田から出火、土手町、松森町、品川町一帯533戸焼失

- 1918(大正7)年
 - ・第1回榎桜会(さくらまつり)開催
 - ・清水村富田字名屋場に富名醸造株式会社が設立され、福島藤助が社長を務める
 - ・福島藤助、札幌市南四条の時計台付近に青森県物産館を建設、「吉野桜」「長安正宗」をはじめとした県内物産の販売に努める

- 1919(大正8)年
 - ・弘前座(旧 榎木座)落成、社長を福島藤助が務める
 - ・福島、堀越村に株式会社日本農園を設立、取締役役に就任
 - ・福島、相良町に弘前印刷会社を設立、取締役役に就任
 - ・福島、富田字清水野に富士食料会社を設立、同敷地内に陸奥製糸株式会社を設立



福島藤助が再建に携わった「弘前座」
弘前市立弘前図書館蔵

1920's-

- 1920(大正9)年
 - ・福島藤助、第5回奥羽六県連合品評会の祝賀式会場にあてるため、私財を投じて私設公会堂「長安倶楽部」をわずか40日で建設。木造鋼葺平屋造133坪、150畳敷きの大広間を中心に幅一間の縁側をめぐらし、北側には床の間、南側には踊舞台をつくらえ、よりぬきの材料が使われた。後日一般に公開され、結婚式・演芸・茶華道その他の諸会合など、市民の社交場として活用された
 - ・第一次世界大戦 終結

- 1921(大正10)年
 - ・福島藤助、清水村富田に富士醸造株式会社を設立、翌年富名醸造に合併
 - ・福島藤助が冷却装置運転などの動力を自力で賄うために計画した水力発電所の工事着工。場所は相馬村紙漉沢(現 弘前市紙漉沢)
 - ・官立弘前高等学校(現 弘前大学)開校
 - ・J.M. ガーディナーの設計による弘前昇天教会が建設される

- 1923(大正12)年
 - ・関東大震災
 - ・東北地方初のデパート、「かくは宮川」土手町に開店
 - ・村上要作(相撲の元関取綾川)がアップル・ブランデー事業に乗り出す

- 1924(大正13)年
 - ・福島藤助が建設した水力発電所が完成

- 1925(大正14)年
 - ・7月6日、福島藤助が心臓麻痺により急逝(享年55)

- 1927(昭和2)年
 - ・太宰治、旧制弘前高等学校に入学。3年後の同校卒業までの間を弘前で過ごす

- 1928(昭和3)年
 - ・4月1日、清水村吉野および清水村紙漉沢地区が弘前市に編入
 - ・4月18日、富田から出火し601戸焼失

1930's-

- 1931(昭和6)年
 - ・満州事変
 - ・坂口謹一郎博士(東京大学農学部)がリンゴ酒醸造に関する論文を発表

- 1933(昭和8)年
 - ・リンゴ酒事業を進めていた佐藤弥作と田中武男が「発泡性林檎酒醸造方法」と名付けた特許を申請(1935年に成立)

- 1934(昭和9)年
 - ・4月14日 楠美冬次郎 満州にて没(享年72)
 - ・青森県内では冷害で大凶作に見舞われ身売り女性や欠食児童続出
 - ・ニッカウキスキーの前身「大日本果汁株式会社」が竹鶴政孝により設立

- 1937(昭和12)年
 - ・収穫したリンゴの屑実の加工利用によって農村工業の育成を図る事業が進められる。リンゴ酒をはじめとする加工飲料、加工食品の製造が企画される

- 1939(昭和14)年
 - ・弘前市品川町に御幸商會が設立される

- 1939(昭和14)～1940(昭和15)年頃
 - ・御幸商會の工場として一時借用される



梨原中三(吉野町3-3)
1932年以前
弘前市立弘前図書館蔵

- 戦時中
 - ・吉井勇がリンゴ酒製造免許を取得
- 1945(昭和20)年
 - ・日本果実酒株式会社に商号変更
- 1949(昭和24)年
 - ・日本酒造工業株式会社に商号変更
 - ・同社では、「吉野桜」や焼酎を製造、北海道などに送る



- 1950(昭和25)年
 - ・このころより、吉井勇がシードルに造詣の深い東京大学農学部坂口謹一郎博士に相談をもちかける。(その後、坂口の仲介でアサヒビール山本爲三郎社長との間で話がまとまる)

- 1953(昭和28)年
 - ・吉井勇が2ヶ月間ヨーロッパ視察

- 1954(昭和29)年
 - ・朝日ビール株式会社の後援により、朝日シードル株式会社弘前工場創業。(社長：吉井勇、取締役：山本爲三郎、監査役：フランソワ・シーバリエー、相馬友彦)
 - 1億3000万円を投資し、170石入り大型貯蔵タンク98基、スウェーデン製遠心分離機2台を新たに購入。米国から輸入した瓶詰め機、濃縮機などの製造設備が備えられた。最終的には年間200万箱のリンゴを使用し、シードル10万石の製造を見込んでいた

- 1956(昭和31)年
 - ・1月8日、朝日シードル発売。家庭向け婦人向け軽飲料として、発売される(アルコール成分4.3%、価格70円)
 - ・東洋では当時唯一の果実発泡酒であり、サイゴン、沖縄との貿易契約が成立
 - ・技術顧問としてミシェル・ヴィエルをフランスから弘前に3か月間招く



- 1960(昭和35)年
 - ・当時の朝日麦酒社長・山本爲三郎がシードル事業の継続をニッカウヰスキー株式会社に依頼。同社がシードル事業を引き続き、ニッカウヰスキー弘前工場として操業開始(初代工場長 岩田晴男)
 - ・秋から東北地方向けウヰスキーの製造を開始
 - ・7月～10月1日までの間に瓶詰め設備の増設
 - ・電気工事は社員の自力で行われた

- 1965(昭和40)年
 - ニッカウヰスキーが弘前市栄町に新工場を建設し移転

- 1967(昭和42)年
 - 吉井酒造株式会社に商号変更

- 1975(昭和50)年
 - 一部を取り壊し合棟し、現存する煉瓦倉庫の形となる

1940's -

- 1940(昭和15)年
 - ・佐藤弥作が「ミユキリンゴ酒」「ミユキシャンパン」の製造に着手
- 1941(昭和16)年
 - ・清酒が配給制となり、その不足分をリンゴ酒で補うようになる
- 1942(昭和17)年
 - ・輸送力の逼迫のため、リンゴ加工業が発達、軍需用のみならず民需用として一般に出回った
- 1944(昭和19)年
 - ・太宰治『津軽』が出版される
 - 「蟹田」の章でりんご酒についての描写あり、戦時中の津軽ではリンゴ酒が多く出回っていたものの、あくまで清酒の代用品であり、あまり歓迎されていなかった様子が描かれる
- 1945(昭和20)年
 - ・青函連絡船が空襲で壊滅、青森市大空襲
 - ・8月15日終戦
- 1949(昭和24)年
 - ・弘前大学設置

1950's -

- 1952(昭和27)年
 - ・弘前電気鉄道の駅として現在の中央弘前駅が開業(吉野町1-6)
- 1959(昭和34)年
 - ・12月5日、奈良美智生まれる



1960's -

- 1963(昭和38)年
 - ・豪雪
- 1968(昭和43)年
 - ・吉井勇、酒造業界への功績により藍綬褒章を受章。(吉井勇は吉井酒造代表取締役の傍ら、弘前観光協会初代会長、県酒造組合連合会会長、日本酒造組合中央会東北支部長を歴任した)
- 1974(昭和49)年
 - ・映画「宵待草」(監督：神代辰巳)制作(吉野町煉瓦倉庫を取り囲む黒板塀が映画の一画面上で登場)
 - ・吉井勇、勲5等旭日章を受章
- 1977(昭和52)年
 - ・昭和52年 集中豪雨で土淵川、寺沢川ふたたび氾濫



- 1978(昭和53)年～1997(平成9)年
 - ・政府米保管用に経済農業協同組合連合会(経済連)の倉庫として使用される(食糧庁指定(臨時)倉庫)



1994年



- 1988(昭和63)年
 - ・村上善男氏(当時弘前大学教育学部教授)が吉野町煉瓦倉庫を美術館にすべきだと提起、煉瓦館再生の会(代表 渋谷龍一氏)を設立。煉瓦館再生の会は20人ほどで組織され、「版画美術館」として活用されるよう倉庫内外でPRイベントを実施

- 1991(平成3)年
 - ・煉瓦館再生の会がPRの一環として、「現代日本版画展」をギャラリーデネガ(弘前市上瓦ケ町)にて開催。(6月19日-)畦地梅太郎、池田満寿夫、磯見輝夫、井上公三、恩地孝四郎、駒井哲郎、田島宏行、野田哲也、吹田文明、塚塚稔尚、前田常作、横尾忠則、吉田穂高ら32人の作品51点が展示された。特別出品としてサム・フランシス、ジャスパール・ジョーンズ、デビッド・ホックニー、棟方志功、下澤木鉢郎、関野準一郎の作品が展示される。(コミッショナー・西村勇晴(当時宮城県美術館企画科長))5日間で1000人近くの来場者があった。またギタリストの原莊介を迎え「プレ・パリ祭」と題したコンサート、原莊介と村上善男との二人の対談が行われた。

- 1994(平成6)年
 - ・弘前市が吉野町煉瓦倉庫設置構想を固める
 - ・11月5日、「アップル・パーティー」(主催:アップルフェア推進協議会)が吉野町煉瓦倉庫内にて開催。倉庫2階を会場に、「白樺のロシア文化と津軽りんご文化」と題した講演会を開催される。(主催:弘前青年会議所)
 - ・生シードル15ℓ、200ml入りのシードル500本、リンゴのチキンロール揚げ、リンゴ巻き寿司などがふるまわれ、パーティー参加者は倉庫内で飲食を楽しんだ。(チケットは事前に完売、約350人の市民らが参加)
 - ・11月5日「いいりんごの日」に向けて、10月26日-11月5日の期間に、煉瓦倉庫と日本聖公会弘前昇天教会を対象に「赤レンガ・ライトアップ」が行われる(協力:東北電力弘前営業所、弘前地区電気工事業者組合)
 - ・初日には点灯式、煉瓦倉庫には1kw水銀投光器5基が取り付けられ、西側と中央部煉瓦壁面85mと屋根の一部を照明

- 1995(平成7)年
 - ・(協)弘前文化財建築研究所が「吉野町煉瓦倉庫調査報告書」を作成

- 1996(平成8)年
 - ・11月4日-5日、「'96ジャパンアップルフェア」(主催:アップルフェア推進協議会)が吉野町煉瓦倉庫にて開催。初日に煉瓦倉庫の活用法を考える市民ワークショップ「吉野町レンガ倉庫でまちづくりの夢を語ろう」が開かれる。(弘前大学住居学研究室)市内の小学生、商店街、消防関係者ら約80人が参加、5時間にもわたるグループ討議が行われた
 - ・11月5日、弘前大学ジャズ研究会の生演奏をバックに、リンゴを使った料理などを楽しむ「アップルパーティー・ジャズと林檎のシンフォニー」開催
 - ・東北大学工学部災害制御研究センターが「吉野町煉瓦倉庫の耐震性に関する調査・研究報告書」を作成

- 1997(平成9)年
 - ・弘前大学教育学部住居学研究室が「吉野町煉瓦倉庫再生利用計画に関する調査報告書」を作成

1980's -

- 1982(昭和57)年
 - ・村上善男、弘前大学教育学部教授就任に伴い、盛岡より弘前へ拠点を移す。
 - ・三美画廊にて個展開催
 - ・吉井勇、逝去

- 1984(昭和59)年
 - ・「奈良美智・三浦孝治二人展」ギャラリーデネガにて開催される

- 1987(昭和62)年
 - ・村上善男、田中屋画廊にて個展開催。以後2003年まで同画廊にてほぼ毎年個展を開催



《レンガ造りの倉庫、吉野町》1984年
撮影:今泉忠淳



《黒塚、吉野町》1984年
撮影:今泉忠淳

1990's -

- 1991(平成3)年
 - ・台風19号(リンゴ台風)でリンゴが大被害を受ける
 - ・全国で赤煉瓦を活用したまちづくりを実践する人たちにより、「赤煉瓦ネットワーク」が結成される



左《北川端町》1990年
撮影:今泉忠淳

右:《中央弘前駅》1995年
撮影:今泉忠淳



煉瓦倉庫周辺の様子
1994年

- 2001(平成13)年
 - ・弘前市が倉庫取得を一時断念
- 2002(平成14)年
 - ・奈良美智展弘前「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME」開催(会期:8月4日-9月29日)
 - (主催:「奈良美智展弘前」実行委員会) 来場者数 58,724人、ボランティア参加者数 469人
 - ・8月4日、奈良美智DJによるライブイベント「ROCK' N' ROLL GYPSIE NIGHT」が開催される
 - ・松井みどり、児島やよいらをゲストに迎えた講演会や映画の上映会が開催される
 - ・会期終了後、こどもワークショップ成果展「We won't forget you. ぼく・わたしの中の奈良美智」開催
- 2005(平成17)年
 - ・「From the Depth of My Drawer」奈良美智展弘前 開催(会期:4月16日-5月22日)
 - (主催:同展実行委員会、NPO法人 harappa) 来場者数 20,019人、ボランティア参加者数 260人
 - ・土崎正彦、岩井康頼、原久子、齋藤奈緒子、齋藤浩を招いたレクチャーが開催される
 - ・会期中「I NEVER FORGET YOU.~From the Depth of My Drawer 弘前展の記憶~」開催(撮影:永井稚子)
 - ・12月、「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展のための奈良美智作品オークションが行われる
- 2006(平成18)年
 - ・3月、grafとボランティアスタッフによる倉庫のリノベーションや会場づくりが始まる
 - 「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展が開催される(会期:7月29日-10月22日)
 - (主催:同展実行委員会、NPO法人 harappa) 来場者数 77,343人、ボランティア参加者数 910人
 - 出品作家は奈良美智のほか、川内倫子、杉戸洋、三沢厚彦、ヤノベケンジ、米田知子、アンクリット・アシャチャリヤソープン、スッティアー・クッナーウィチャーヤノン、マイ・ホフスタッド・グネス
 - ・会期初日に bloodthirsty butchers によるライブ、奈良美智による DJ+ スライドショーが行われる。(弘前 Mag-net)
 - ・8月26日、「Midnight AtoZ」として、深夜1時まで開館。(奈良美智、ファッションデザイナー中野裕通とのトークなど)
 - ・『ねぶたまつり』に、奈良美智の様々な作品をモチーフに弘前市民が作る「ならねぶた」が運行。さらに、「ならねぶた」を奈良美智自身が審査する「ならねぶたコンテスト」も併せて開催
 - ・その他ゲストを招いたレクチャーイベントが会期中に多数開催される
 - ・ドキュメンタリー映画『NARA / 奈良美智との旅の記録』の先行上映会が会期中に行われる
- 2007(平成19)年
 - ・奈良美智氏による立体作品《A to Z Memorial Dog》が弘前市に寄贈され、10月21日に吉野町緑地に設置される



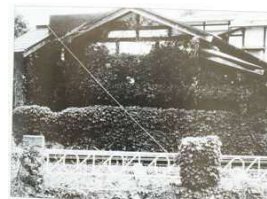
- 2010(平成22)年~2013(平成25)年
 - ・teco LLC. が事務所として利用
- 2010(平成22)年、2011(平成23)年
 - ・「岩木遠足」(主催:岩木遠足実行委員会)のイベント会場として使用される
- 2011(平成23)年
 - ・「弘前雪明り」が吉野町緑地にて行われる
- 2015(平成27)年
 - ・土地と建物が弘前市の所有となる
 - ・「弘前市吉野町煉瓦倉庫・緑地整備検討委員会」が組織される
 - ・社会実験として「座り場@ひろさき2015」が吉野町緑地にて開催される(事業主体:国土交通省、弘前青年会議所)
 - ・「りんご王国感謝祭 Cross.S」(主催:りんご王国推進会議)のりんご酒フェスティバル会場として使用される
 - ・《A to Z Memorial Dog》が修復作業を終え、倉庫の一部のスペースに展示される
- 2016(平成28)年
 - ・「Snow Art Gallery~スノーアートギャラリー~」が吉野町緑地にて行われる
 - ・平成28年度吉野町緑地周辺整備推進事業として、「れんが倉庫こども写真会」、「光と音のサーカス ワークショップ/弘前公演」、「煉瓦倉庫見学会」が行われた(企画・運営:NPO法人 harappa)
 - ・「光と音のサーカス 弘前公演」には県内外から約300名が来場。出演者:CINEMA dub MONKS(首我大穂、ガンジー西垣)、渡辺敬之、小金沢健人、スズキタカコキ
- 2011(平成23)年
 - ・東日本大震災
 - ・築城400年
- 2016(平成28)年
 - ・平成28年度吉野町緑地周辺整備推進事業として、記憶と再生のワークショップ「布でつくる、クリスマスのオーナメント」(講師:大柳暁)
- 2017(平成29)年
 - ・弘前市吉野町緑地周辺整備PFI事業 公募型プロポーザル方式により、(仮称)弘前市芸術文化施設の設計・建設・工事監理、作品収集・設置、開館準備、運営、維持管理業務を担う民間事業者が決定
 - ・「弘前市美術作品等収集選定委員会」が組織される
 - ・「れんがそうこ部」ができる
 - ・吉野町緑地にて「朗読と映像でつづる野外劇『煉瓦倉庫ものがたり』」が開催される
- 2018(平成30)年
 - ・れんがそうこ部発表会「Bricks~れんがそうこのすべて」開催



撮影:長谷川正之

2000's-

- 2001(平成13)-2002(平成14)年
 - ・「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME」
 - 横浜美術館(2001年8月11日-10月14日)
 - 芦屋市立美術館(2002年1月19日-3月31日)
 - 広島市現代美術館(2002年4月7日-6月2日)
 - 北海道立旭川美術館(2002年6月14日-7月28日)
 - ・国際芸術センター青森開館
- 2004(平成16)-2005(平成17)年
 - 「From the Depth of My Drawer」
 - 原美術館(2004年8月11日-10月11日)
 - 金津創作の森 アートコア ミュージアム-1(2004年10月19日-11月28日)
 - 米子市美術館(2005年2月10日-3月21日)
- 2006(平成18)年
 - ・村上善男 没(享年73)
 - ・2月27日、弘前市、岩木町、相馬村の3市町村が合併
 - ・青森県立美術館開館
 - ・展覧会会期中に期間限定のカフェ「graf media gm:HIROSAKI」がオープン
 - ・展覧会オリジナルの焼印入りお菓子が販売される
 - ・まちなか情報センターに期間限定のカフェができる
 - ・ラッピングバスや青森県立美術館と展覧会場をつなぐバスが走る
 - ・無料貸し自転車・サイクルネットに「A to Z」ステーションが設置される
 - ・六花酒造より「A to Z Cup House」が発売される
- 2008(平成20)年
 - ・十和田市現代美術館開館



《吉野町》2009年
撮影:今泉忠淳

2010's-

- 2011(平成23)年
 - ・東日本大震災
 - ・築城400年
- 2016(平成28)年
 - ・平成28年度吉野町緑地周辺整備推進事業として、記憶と再生のワークショップ「布でつくる、クリスマスのオーナメント」(講師:大柳暁)
- 2017(平成29)年
 - ・弘前市吉野町緑地周辺整備PFI事業 公募型プロポーザル方式により、(仮称)弘前市芸術文化施設の設計・建設・工事監理、作品収集・設置、開館準備、運営、維持管理業務を担う民間事業者が決定
 - ・「弘前市美術作品等収集選定委員会」が組織される
 - ・「れんがそうこ部」ができる
 - ・吉野町緑地にて「朗読と映像でつづる野外劇『煉瓦倉庫ものがたり』」が開催される
- 2018(平成30)年
 - ・れんがそうこ部発表会「Bricks~れんがそうこのすべて」開催

